

巡礼者イニゴ

聖イグナチオ・デ・ロヨラの劇的な生涯の劇

塩谷恵策 SJ

41

第十二幕 第3場

ヴェネチア サン・マルコ広場にて

1523 年5月中旬

登場人物： イニゴ・デ・ロヨラ 巡礼者

マルコ・アントニオ・トレビサーノ

トレビサーノ婦人と子供たち

トレビサーノ家の執事

【語り】 その翌日の夕方、修道院の夕の祈り（Vespere）に参加し、托鉢をして

帰ってきたイニゴに 一人の紳士が語りかけました。

マルコ：アントニオ・トレビサーノ：ああ、ここにお泊りでしたか！やっと見つけました。あなたをずっと探していました。あなたがこの広場の回廊におられると聞いていましたので。

イニゴ：今日は托鉢と、Vespere にあずかっていたものですから、つい先ほど戻ってきたばかりです。

トレビサーノ：^{それがし}某は、このあたりに住むマルコ・アントニオ・トレビサーノと申すものにて候。（とは言わなかったでしょうが）托鉢をしておられるのですか！！ 大変ですね。ヴェネツィアの人々は親切に喜捨しますか？

イニゴ：イスパニアと同じです。皆さん神に捧げるといながら、寛大に恵んでくださいます。

トレビサーノ：そうですか。それを聞いて安心しました。どうか私にも、貴方を通じて神に捧げ物をする機会をお与え下さい。お願いですから、どうぞ私どもの家にお泊りください。巡礼船が出帆するまで何日でも構いません。

イニゴ：ご親切には痛み入ります。けれども私はわが主キリストに倣うために大空の下で生活しているのです。主は「狐には穴があり、空の鳥には巣がある。だが、人の子には枕するところもない。」〈ルカ 9⁵⁸〉と言

われました。

トレビサーノ：おっしゃることはよくわかり、尊敬します。私の申し出が、貴方の修行の妨げになることは望みません。けれども、私の気持ちもお察しください。お見受けするところ、かなりやつれて、お疲れが出ているように見えます。それに気づきながら放っておく訳には参りません。私に功德を積むチャンスを与えるのだと思って、拙宅に来てはく
ださいませんか？

イニゴ：有難いお言葉です。少し考えさせてください。

トレビサーノ：どうぞよくお考えください。これからもあなたは何度も野宿される機会をお持ちになるでしょう。ここヴェネツィアにいるときぐらい、拙宅でおくつろぎください。貴方が石畳の上で夜を明かされるのを知っていながら、私が温かいベッドで眠ることなどできないのです。

【黒い使いの合唱】

イニゴよイニゴ だらしねー やすやす初志を 翻す？
おまえの捧げる 犠牲とは 所詮 そんな程度かよ

【白い天使の合唱】

汝には 志あり エルサレム 巡礼のため
健康を 回復するも 神のみ旨と 信じて受けよ

良き人の ^{おもんばか}慮りを 心より 謝して受くべし
み摂理は 人を通して 力強く 働くこと多し

イニゴ：それでは、お言葉に甘えて御厄介になることにいたしましょう。

トレビサーノ：厄介などであるものですか。嬉しいです。どうぞこちらへ。お荷物を半分持ちましょう。

イニゴ：荷物といえば、この杖とノートと着替え少々だけです。全部自分で運べます。

トレビサーノ：えっ？たったこれだけですか？（さも感心したように）人一人、これだけで暮らせるものなんですかあ！

イニゴ：神に信頼すれば、神が助けてくださいます。現に今、貴方が助けてくださってるではありませんか。主において 何の不足もありません。

トレビサーノ：大したもんですなあ。私など何でもかんでもごたごた集めて、それでもあれがない、これが足りないなんて言ってるのですから。

あなたに見習わなければ・・・。

第4場

トレビサーノ家の玄関（15分後）

トレビサーノ：只今。

執事： お帰りなさいませ。直ぐ奥様をお呼びします。

トレビサーノ婦人： お帰りなさい。遅かったのね。

トレビサーノ： 広場に行ってみたんだ。巡礼のお方をお連れしたよ。

トレビサーノ婦人： まあ、良かったこと。やっとお会いできたのですね？

（イニゴに向かって）いらっしやいませ。マリア（家政婦）からあなた様のことを伺っておりました。どうぞ、ごゆっくりお過ごしくださいませ。

イニゴ： ありがとうございます。お世話になります。

子供たち： こんばんは。よくいらっしやいました。

イニゴ： こんばんは！

トレビサーノ婦人： さあ、どうぞ、どうぞ。夕食の支度が出来ています。